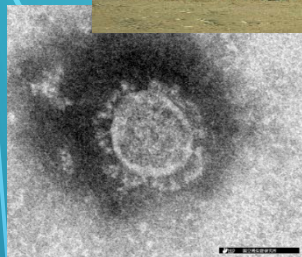


コロナ禍から 水環境研究者が学べること



いま私たちは、頻発する大規模災害や新型コロナウイルス感染症など、経験したことのない禍（わざわい）により、暮らし方や生き方を根本から見つめ直す機会を与えられています。水環境の調査・研究のあり方も、成果について学界等に発信するだけでなく、行政や市民等に還元し、社会実装を行うことがますます求められています。

新型コロナウイルスや放射性物質の拡散など、多くの市民に多大な影響を与えた最近の事例について、私たち水環境研究者はどのように関わり、また社会とコミュニケーションを進めていけばよいのでしょうか。現場の最前線で関わってきた2人の識者に話題提供をいただき、これらの災害から水環境研究者が学べることについて考えたいと思います。

日時 : 3月12日(金) 15:30~17:30
場所 : オンライン開催(ZOOM)
参加費 : 無料(参加方法は以下参照)

講演①「福島災害とCOVID-19から調査・研究と社会実装を考える(仮)」

村上道夫 准教授 (福島県立医科大学)

講演②「滋賀県における新型コロナ感染症予測モデル構築と政策活用」

佐藤祐一 専門研究員 (琵琶湖環境科学研究センター)

参加方法 :

以下のメールまで、①お名前、②ご所属、③メールアドレスをご連絡ください。追って参加URLを返信します。なお、ご参加できるのは、第55回水環境学会年會に参加登録をされた方のみとなりますのでご注意ください。

大阪府立大学 櫻井伸治 Mail: sakurai@envi.osakafu-u.ac.jp

特別講演後に、本研究委員会の総会(研究集会)を開催しますので、ご関心のある方はあわせてご参加ください。